

公表

## 事業所における自己評価総括表

|                |                 |    |        |                 |
|----------------|-----------------|----|--------|-----------------|
| ○事業所名          | 児童デイあつたまある緑     |    |        |                 |
| ○保護者評価実施期間     | 令和 7 年 2 月 1 日  |    | ～      | 令和 7 年 2 月 28 日 |
| ○保護者評価有効回答数    | (対象者数)          | 23 | (回答者数) | 15              |
| ○従業者評価実施期間     | 令和 7 年 2 月 1 日  |    | ～      | 令和 7 年 2 月 28 日 |
| ○従業者評価有効回答数    | (対象者数)          | 7  | (回答者数) | 7               |
| ○事業者向け自己評価表作成日 | 令和 7 年 3 月 14 日 |    |        |                 |

## ○ 分析結果

|   | 事業所の強み（※）だと思われること<br>※より強化・充実を図ることが期待されること | 工夫していることや意識的にやっている取組等                                                                 | さらに充実を図るための取組等                                                                        |
|---|--------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------|
| 1 | 工作などの作品作りが得意な職員が多い。                        | 季節ごとの装飾を作成したり、工作や描画をして楽しむことを積極的に取り入れている。工作のアイデアを工夫して楽しく取り組めるように務めている。                 | 児童の作品を展示会に出展するなど、外に向けた活動にも取り組みたい。                                                     |
| 2 | 事業所の周囲のスペース（建物外構や駐車場）が広く、遊び場として活用できる。      | 夏は駐車スペースも使ってプール遊びを行なっている。                                                             | 敷地内で保護者や近隣住人なども参加できるイベントを開催し、地域連携していきたい。<br>遊びのイベント以外にも、防災・消防訓練（消防署に依頼してのもの）などを開催したい。 |
| 3 | 特性の異なる児童が利用している。                           | いろいろな特性の児童と一緒に活動し、それぞれを気遣って過ごしている。たとえば車椅子利用の児童と、肢体不自由がない児童とでも一緒に遊べるゲームやダンスなどをおこなっている。 | 児童たち本人が自然とそれぞれを気遣うことができているので、さらにその気持ちを伸ばして、社会の中でどう行動していくかを考えられるようにしていきたい。             |

|   | 事業所の弱み（※）だと思われること<br>※事業所の課題や改善が必要だと思われること                      | 事業所として考えている課題の要因等                                                                              | 改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等                                                                                          |
|---|-----------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1 | 安全性について対策の検討を重ねているが、予期せぬ事故について、もっと考えていかなければならない。                | 職員間の声掛けや、チェックシートを使って見落としや間違えがないように務めているが、ヒューマンエラーが起きそうなヒヤリハットがある。定期的な研修や見直しが必要と思われる。           | 職員の心身の健康に留意し、疲れを溜めないようにすることや、精神的に健康でいられるよう、心の健康づくりに関しての講座や研修を設けたい。                                            |
| 2 | 職員間のミーティングが、その日のうち（終業後）にはできず翌日になってしまうことが多い。                     | 利用者の自宅までの送迎に時間がかかり（距離が遠い、渋滞する）、職員の事業所への帰社が遅い時刻となるため、職員の疲れを溜めないようにとの配慮から、すみやかに退勤させたいとの会社の意向がある。 | 急を要するものは書面にて残し、その日のうちに（退勤前に）各職員が目を通すようにしている。そこで疑問点があった場合には、電話等で管理者や担当者と詳細について話す。最も緊急性の高いものは、職員が残業して共有、対応していく。 |
| 3 | 周辺の住民や関係機関など地域の方々と触れ合うことができていない。<br>保護者同士が知り合ったり交流する場が設けられていない。 | 以前は近隣の保育園・幼稚園と交流があったり、保護者の茶話会を開催していたが、コロナウィルスの流行以降、感染症に関する危機意識が高くなり、交流する計画が立てにくくなってしまった。       | 感染症には十分に留意するルールを設けて、危険のない範囲で交流する活動を行なっていきたい。                                                                  |